

平成21年7月30日
J S P S ロンドン

Nature 誌記事「Japan's tipping point(日本の転機)」について

7月9日付け Nature 誌に「Japan's tipping point(日本の転機)」と題した記事が掲載されましたのでお知らせいたします。

先月発行された科学技術白書が紹介され、日本の科学技術の動向について、Nature 誌編集長 Philip Campbell 氏の意見が述べられています。

Campbell 氏は、若手研究者の減少や留学生受入数が他国と比較して少ないこと、さらには、日本の研究者の内向き思考等、現在の日本の抱える問題に触れています。

同氏は、経済対策の一環として成立した補正予算 2700 億円についても触れ、今回の補正予算を応用研究に充てるよりも、今までの競争的資金に追加すべきであり、若手研究者のために新しいポストを大学に創設すべきだと述べています。ただし、日本が積極的な改革を行っていることにも触れられており、理化学研究所の Functional Annotation of the Mouse cDNA project や京都大学の国際共同人材育成機構(平成20年度文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」プログラム)が好例として挙げられています。

また最後に、優秀な若手研究者に魅力的なポストを提供するシステム構築が必要であると述べています。若手研究者への十分な動機の提供及び独立するためのサポートが慢性的に機能していない中で日本は、今転機に立たされていると提言しています。

(以下参考)

【Nature Website】

Japan's tipping point

<http://www.nature.com/nature/journal/v460/n7252/full/460151a.html>

【平成21年度版 科学技術白書】

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa200901/1268148.htm

【筆者: Philip Campbell, Editor-in-Chief, Nature and Nature Publications】

<http://www.nature.com/nature/about/editors/>

(了)